

# 5分の1の名残り



この武家屋敷は平民宰相 原敬の生家です。原家第7代当主盛岡藩家老 原直記芳隆が嘉永3年（1850）に大改築を行いました。200坪もある大きな屋敷であり藩主を迎えるために「御成座敷」も特別に作られました。この家の造りは、幕末の嘉永3年の工法や用材を現在に伝え屋敷の茅葺きとともに貴重です。原敬は、安政3年（1856）この家で生まれ明治4年15歳で上京するまで生活し少年期を形成しました。その後、原家第9代当主原恭（原敬の兄）は明治6年に御成座敷等不要となった部屋を廃却しましたので、現在は居間の直記の間、次の間、隅の間、女中部屋など当時の5分の1が残っています。

（案内板より）

